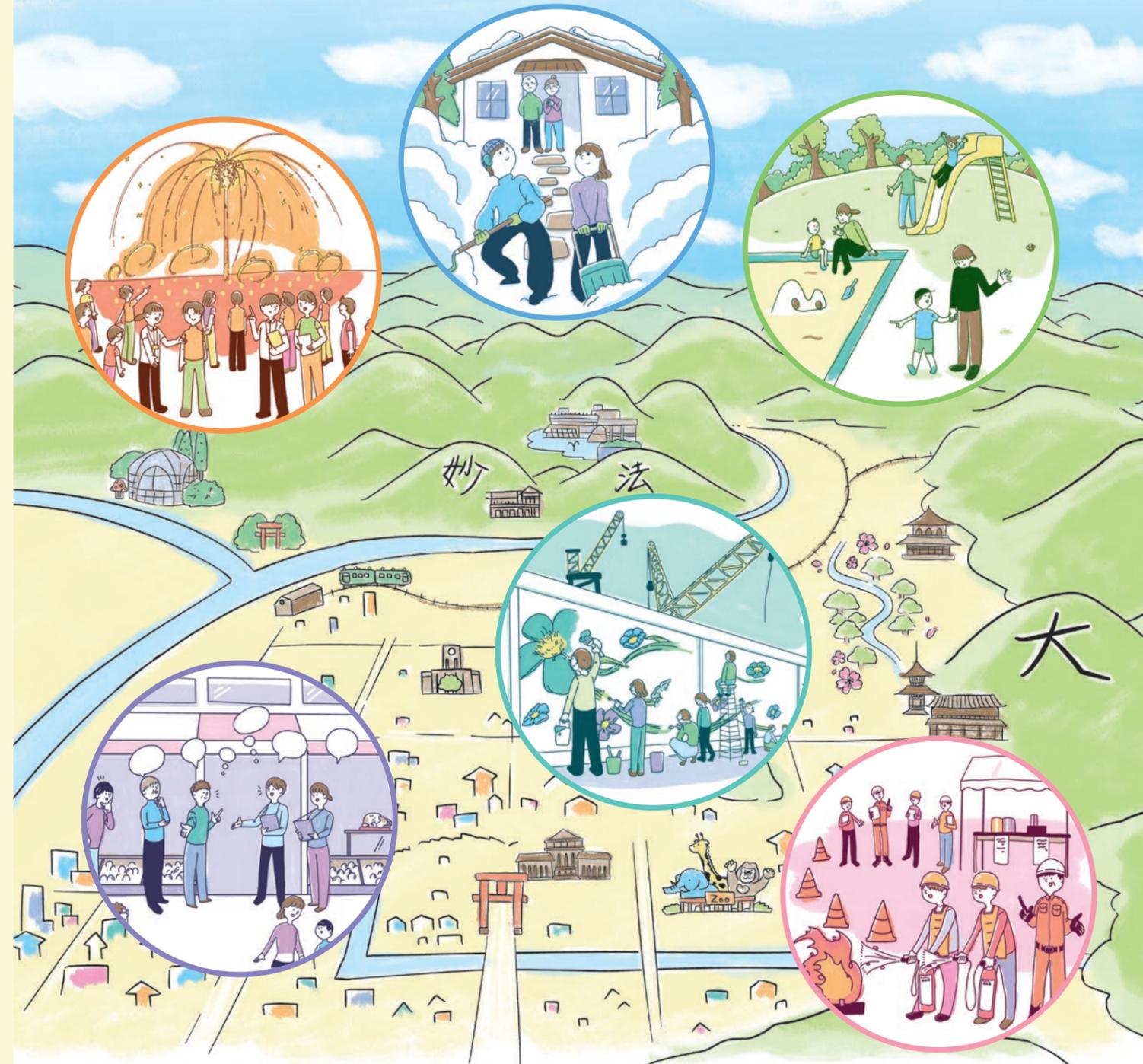
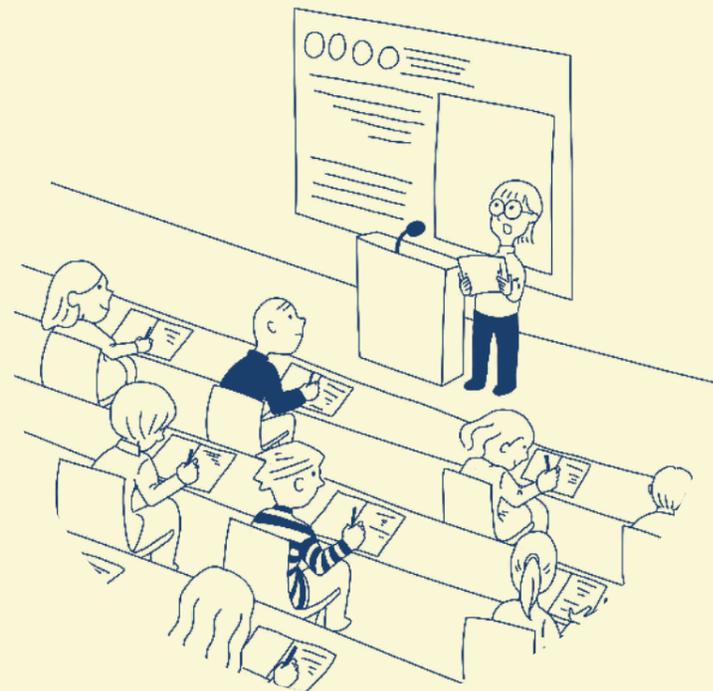


大学のまち・学びのまち **左京**

～地域課題の解決に向けた取組～



自然環境

4

チマキザサ再生の取組

京都大学

風倒木を活用した取組

京都精華大学

京都北山やままゆ塾 京都産昆虫類の保護と活用を目的とした環境教育

京都工芸繊維大学

安心安全

7

左京区防犯防火ハンドブックの制作

京都精華大学

伝統行事

8

鞍馬の伝統文化と生物多様性を支える里山づくり

京都大学

地域文化財を活用した山間地区コミュニティの維持方策の研究

京都府立大学

文化・芸術

10

駅ナカアートプロジェクト2021

京都工芸繊維大学

1200年前の音を“創造”するアートプロジェクト「NAQUYO—平安京の幻視宇宙—」

学校法人瓜生山学園 京都芸術大学

福祉

12

左京区内にある障害者就労支援事業所との協働活動

京都ノートルダム女子大学

京大病院ホスピタルアートプロジェクト

学校法人瓜生山学園 京都芸術大学

発達に特性がある子どもの余暇支援

京都府立大学

観光

15

With コロナの嵐山観光を考えるゼミ

京都ノートルダム女子大学

はじめに

令和3年度に策定しました左京区基本計画（第3期）では、「誰一人取り残さない」SDGsの理念を踏まえて持続可能なまちづくりを推進することを基本姿勢としています。第2期計画から引き継いだ目標の中でも、「歴史・文化・学問のまちづくり」では、豊かな歴史と多彩な文化、多くの大学が集まる学問の魅力を更に高めるまちづくりを進めることとしています。

この市内行政区の中で最も大学数が多い左京区の特徴は、地域と大学・学生との交流が図られ、大学の発想を生かしたまちづくりを推進するうえで、大きな可能性を秘めています。

本冊子は、区内6大学による地域での取組事例を「自然環境」、「安心安全」、「伝統行事」、「文化・芸術」、「福祉」、「観光」の各分野ごとに御紹介する内容となっています。本冊子を通して地域の皆様がまちづくりを進めていただく一助となれば幸いです。

左京区といたしましても、大学・学生と地域・行政等が連携できる仕組みづくりを進め、区誕生100周年、さらにその先の未来に向けて、「歴史・文化・学問のまちづくり」を区民の皆様と一緒に取り組んでまいりますので、引き続き御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに当たりまして、本冊子の発行に御協力いただきました大学関係者の皆様をはじめすべての皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

左京区長 古瀬ゆかり

自然環境

チマキザサ再生の取組

京都大学大学院 地球環境学 景観生態保全論分野
助教 貴名 涼

チマキザサは古くから北山に自生するササの一種です。人々は美しい葉だけを選び集め、祇園祭の厄除け粽や京料理・京菓に利用してきました。祭礼や食という京都らしい暮らしには欠かせない植物であり、膨大な量の葉が市内で消費されています。この地産地消が数世紀にわたって続いてきたことも注目すべき点です。

しかし近年になって、一斉開花・獣害・環境変化といった様々な要因から北山のササが消失し、流通が停止してしまいました。この状況を打開するため、2013年に「チマキザサ再生委員会」を立ち上げ、市内の産官学民が手をとりあって保全を進めています。京都大学、生産地の北部山間地域、消費地の祇園祭山鉾町、京都市(左京区役所等)などがメンバーです。ササを守ろうと声を上げた市民らに呼応して、京都大学の研究者が共にフィールドワークを行い、社会・生態の両面から学術的知見を蓄積しました。大学が再生への道筋を示し、これを京都市が事業化、結果として徐々に資源回復が進み、地域ではいよいよ流通の復活に挑戦することになりました。これからも研究力という大学の強みを活かしながら、顔が見える関係性での地域貢献を果たせるよう取組を進めてまいります。



▲雪かきボランティア



風倒木を活用した取組

京都精華大学 建築学科
教授 葉山 勉

京都精華大学 建築学科では、2018年の台風被害にあった鞍馬山の貴重な木材の提供を受け、木材を活用した地域との連携活動を展開しています。京都市左京区役所の事業、「鞍馬の文化」発信プロジェクトでのスランプラリーの記念品としてストラップの制作、サイコロ形に積み木ブロックのキットを準備し、地域の子どもたちとワークショップなどを行ってきました。樹齢数百年の「無垢」の杉やヒノキの木に触れると、その香りや肌触り、美しい木目に魅せられて、心が清らかになる心地良さを感じています。

また、土砂崩れの影響で運休していた、叡山電鉄鞍馬線 市原駅～鞍馬駅間が2021年9月に運転を再開した際には、記念品としてコースターを制作させていただきました。いずれも本学の教員が見守る中、学生たちが主体となった活動です。地域の自然の財産である木材を活用し、地域の活性化と子どもへの情操教育は、大学と地域が参加するSDGs活動として位置づけています。

学生の声

● 鞍馬駅でのワークショップでは、たくさんの子どもたちや、ご家族と交流でき、コロナ禍を吹き飛ばすような楽しい笑顔に出会えたことが嬉しい思い出です。



安心安全



出前授業(松ヶ崎小)



松ヶ崎の宝物「ヤママユ」



子ども自然観察会(宝が池公園)

京都北山やままゆ塾 京都産昆虫類の保護と活用を目的とした 環境教育

京都工芸繊維大学 応用生物学系 昆虫生理機能学 教育研究分野
准教授 齊藤 準

五山の送り火「妙法」の灯る松ヶ崎周辺は、宝ヶ池、深泥池と市街地に近接していながら豊かな里山の自然が残されています。2011年4月に身近な環境を大切にすることを目的として「京都北山やままゆ塾」を開塾しました。毎年、松ヶ崎小学校では出前授業「虫たちの世界をのぞいてみよう!松ヶ崎の宝物ヤママユ」と校舎の一角でヤママユの幼虫の飼育と営繭から羽化までの生態を観察するための生体展示を行っています。本学松ヶ崎キャンパスを拠点に「京都産昆虫種の系統化による保護活動と活用を目的とした環境教育研究」をテーマに、学習会、観察会、公開講座、展示会などを開催しています。京都市内の小学生を対象としたヤママユの飼育・観察を体験してもらおうプログラム「育ててみよう!ヤママユ」や秋には宝が池公園周辺で子ども自然観察会を実施しています。また、毎年8月にはミニ昆虫展:写真と標本から知る「京の虫たちの不思議な世界」を開催しています。特に子どもたちには、地域の生きものたちを大切にすることと生きもの不思議さや自然の楽しさを感じることで、深めてもらいたいと考えております。本学学生も塾生として活動に参加しています。



▲防災訓練

左京区防犯防火ハンドブックの制作

京都精華大学 学長室グループ
関口 正春

制作する際に重視したのは、世代を越え多くの市民の方に親しみを持って読んでいただける冊子にすることです。そのため監修を担当した京都精華大学マンガ学部の小川剛教員は、たくさんの卒業生作家の中で、親近感がある絵柄でかつ独自の世界観を持つイラストとデザインを生み出している、おかやまたかとしさんと、こやまもえさんへ制作を依頼しました。かつて左京区在住であった二人は、大学時代過ごした左京区が、より安心安全に過ごすことができる街となるよう、区民みなさんに犯罪の現状と対策を知ってもらうことで、犯罪に巻き込まれる人を一人でも減らしたいという想いをこめて制作しました。防犯防火に携わる方々の要望をくみ取った表現にするため、イラストの形や質感を大切に、デザインは見やすく分かりやすくすることを心掛けています。二人が左京区への想いを込めて製作したハンドブックです。ぜひお手にとってご覧ください。



完成したハンドブック



作者自画像イラスト

卒業生の声

- 一人暮らしをしていた左京区の冊子を手掛けることができ嬉しいです。スケッチのため、自転車に大きな画材を積んで大学から動物園まで通ったのもいい思い出です。



伝統行事

鞍馬の伝統文化と生物多様性を支える 里山づくり

京都大学 環境デザイン学・景観生態保全論分野
准教授 深町加津枝

●「鞍馬の火祭」で用いる里山の自然資源調査

「鞍馬の火祭」には、近隣の里山で採取したアカマツやコバノミツバツツジ等を松明に用いており、火祭の継続には、柴の量と質の両方の維持が重要です。調査の結果から、柴採取に適した里山が大きく減少し、定期的な手入れとシカ対策が必要なことなどがわかりました。コバノミツバツツジなどの生育に適した明るく、萌芽更新しやすい里山の再生が重要となります。

●地域と連携した里山再生活動

鞍馬の火祭保存会の方々と一緒に「鞍馬の火祭」などの伝統文化を支える里山再生活動に取り組んでいます。活動は、持続的な自然資源利用を通して、鞍馬の里山の豊かな自然、生物多様性を再生することを目標としています。

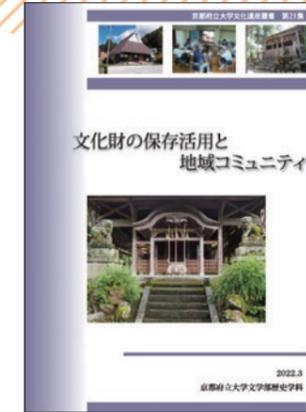
また、ガイドブックの作成や情報発信、体験プログラムなどにより、都市と農山村を結び、自然資源を日常、非日常において多様に利用できる新たな仕組みにつなげる活動も行っています。

●「鞍馬の火祭」のボランティア活動

毎年10月22日に執り行われる「鞍馬の火祭」には大勢の人が参加・見学に来られます。そこで、学生が中心となり、地元や京都市左京区役所と連携しながら、ボランティアとして通訳や資料配布、道案内などのお手伝いをしています。



▲松上げの案内



報告書の表紙



広河原松上げ保存会への聞き取り



久多宮の町松上げ保存会への聞き取り

地域文化財を活用した 山間地区コミュニティの維持方策の研究

京都府立大学 文学部歴史学科
准教授 上杉 和央

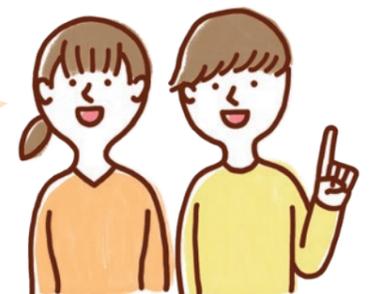
左京区は北部の山間地域から南部の市街地まで豊かな文化や歴史に基づく数多くの伝統行事が行われています。とりわけ、北部山間地区（久多・花脊/別所・広河原）は、独自の祭礼や行事が発展してきた地域で、伝統行事は地域コミュニティの核として生活と一体となって執り行われています。

しかし、人口減少や高齢化、地域の方々の意識の変化、伝統行事に使う原材料の調達難の難しさから、伝統行事の継続について苦慮される保存会や地域住民のみなさんの声も聞かれるようになってきました。さらに2020年からの新型コロナウイルスの感染拡大は、伝統行事の開催に大きな影響を与えています。

そこで、京都府立大学では、こうした状況を把握するために、京都市左京区役所及び京都市文化財保護課の協力を経て、左京区内の無形民俗文化財の保存会等を対象に、アンケート調査及び聞き取り調査を行い、調査結果を報告書として取りまとめました。報告書については、京都地域未来創造センターのホームページ (<https://kirp.kpu.ac.jp/>) で公開予定です。

学生の声

●就職活動に何かしら役に立つかなと思い参加しました。京都の伝統行事に携わり、地域の方とつながりを持てたことは、将来きっと生きてくると感じる体験でした。



文化・芸術

駅ナカアートプロジェクト2021

京都工芸繊維大学 工芸科学部 デザイン・建築学系
准教授 西村 雅信

「駅ナカアートプロジェクト」の一環で、京都工芸繊維大学の学生11名が創作した作品が京都市営地下鉄烏丸線・松ヶ崎駅に展示されました。

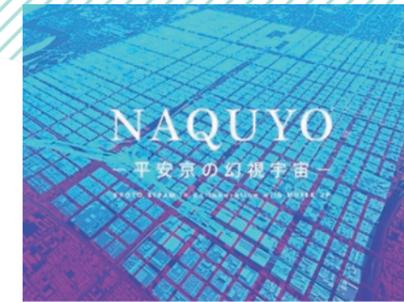
同プロジェクトは、芸術系大学を中心とした学生によるアートやデザインで、京都の地下鉄駅を明るく、活性化させる事業で10周年を迎えます。今年度は「Next...」を創作テーマとし、12駅(烏丸線5駅、東西線7駅)が各大学の学生たちの個性豊かな感性で創作されたアートで彩られました。

本学の参加学生は「時間の境界」と題し、「新型コロナウイルスにより、リモートワークやオンライン授業が日常化し、時間の流れの感じ方、考え方が大きく変化しています。閉鎖的な地下鉄駅に時間の流れを感じられる空間を提案します。」という意図で創作に取り組みました。

この作品は展示して終わりではなく、朝・昼・晩と、松ヶ崎の表情が変化するように、布の位置を学生が変え、日常の中の移ろいゆく時間と風景を表現しています。それら、学生達が楽しみながら演出しているところも素晴らしいと思うところです。



▲パブリックアート



1200年前の音を“創造”する アートプロジェクト 「NAQUYO—平安京の幻視宇宙—」

学校法人瓜生山学園 京都芸術大学
芸術学部 歴史遺産学科

京都を舞台に展開する、アート×サイエンス・テクノロジーをテーマとした国際的な文化・芸術フェスティバル「KYOTO STEAM—世界文化交流祭—」。そのプログラムの一つ、「NAQUYO—平安京の幻視宇宙— KYOTO STEAM in collaboration with MUTEK.JP」(KYOTO STEAM—世界文化交流祭—実行委員会主催)に京都芸術大学芸術学部歴史遺産学科が協力し、1200年前の平安時代、平安京に住む人たちが耳にしていた「音」の創造に取り組みました。プロジェクト名のNAQUYO(ナクヨ)は、数字の「794」から。794年は、平安京が京都に遷都した年。その平安京が消失してからちょうど794年目という2020年に「NAQUYO」は始動しました。

かつて平安京があった京都の街で、いまではもう聞くことのできない1200年前の「音」の学術的な調査を歴史遺産学科が担当。「天(自然)」と、「ヒト」と「モノ」の3つの観点で学生が行ったリサーチの研究成果をオンラインにて発表しました。そして、その成果をもとにサウンドアーティストが「NAQUYO LIVE PERFORMANCE」として平安京のサウンドスケープ(音風景)を制作、ロームシアター京都サウスホールにてライブパフォーマンスが開催されました。

学生の声

- 「音は人が聞くから存在する」ということに改めて気付くことができました。
- 三日三晩同じ絵巻を見続けると、夢の中に平安時代の風景が出てきました。現代からタイムスリップしたようでした。



福祉

左京区内にある障害者就労支援事業所との協働活動

京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 生活環境学科
教授 酒井 久美子

地域福祉と活動ゼミでは、2014年度から京都市北部障害者自立支援協議会所属の事業所のみなさんと大学祭を始め、NDクリスマス等で「地域協働ぶろじゅくと」として協働活動に取り組んでいます。目的は、障害者の課題である就労の難しさや工賃の低さ等について学び、障害者理解と工賃の向上に向けて、自分たちに何が出来るかを考え取り組むことです。その一環で、社会福祉法人修光学園 飛鳥井ワークセンターのみなさんとは、上記以外に、学内で定期的にパン販売を行っています。ゼミ生は、啓発カードの作成やアンケートの実施、商品の内容や価格がわかる札の作成、コロナ禍においては、予約販売や安全な対面販売の方法を考えるなど学年ごとに創意工夫しています。また同法人のワークセンター Halle!の製菓事業とも協働し、本学オリジナル商品や創立60周年記念の商品も考案しました。

活動を通して、ゼミ生は課題を見極め、ゼミ生同士、事業所のみなさんとのコミュニケーションを図り、さまざまなアイデアを提案し、形にしていくことの大切さに気づき、自主的、積極的に取り組むことができていると思います。また事業所のみなさんも日々のお仕事へのやりがいや意欲を高めてくださっているようです。



▲子育て支援



パン販売の様子



啓発カードの作成



60周年記念焼きドーナツ考案



写真撮影:大河原光



写真撮影:大河原光

京大病院ホスピタルアートプロジェクト

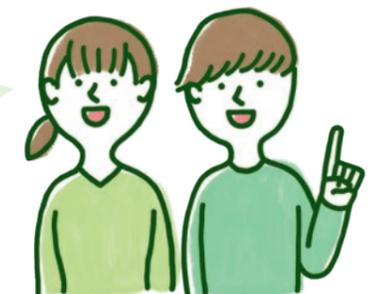
学校法人瓜生山学園 京都芸術大学
芸術教養センター

2021年1月、京都大学医学部附属病院に「こども医療センター」が開設されました。高度な医療を行うだけでなく、入院患者や家族のQOL(生活の質)にも配慮した病棟。そこに彩りを添えたのが、京都芸術大学の学生たちによるホスピタルアートです。コロナ禍のためオンラインで始動した本プロジェクトは、学生どうし話し合い、病院側へのヒアリングなど、さまざまなところで困難に直面。それらを一つひとつクリアすることで、無事に大作が完成しました。処置室、外科系フロア、内科系フロアの3つのエリアをそれぞれ異なるテーマでデザインしています。

【処置室】「あそび」がテーマ。「電車ごっこ」「絵しりとり」など、こどもたちが大好きな遊びを表現。
【外科系フロア】「えん」というテーマ。花や草木のリース、動物たちが、円をモチーフとしたラインでつながる。
【内科系フロア】「ピース」をテーマに、花や草木がおたがいを仲良くうけとめ、いろいろな動物をかたちづくる。

学生の声

- 学内でのパン販売の際、対面販売を行うことが難しい時期はLINEの公式アカウントで予約販売をしました。3密を防いで、食品ロスも削減できたと思います。
- チームの学生同士で得意や不得意をフォローしあって、みんなでやり遂げました。
- こどもたちやその家族の方々はこの場所を見てどう感じるだろう。こわいけれど、ぜひ聞いてみたいです。



観光



発達に特性がある子どもの余暇支援

京都府立大学 ボランティアサークル
「たろうとはなこ」

「たろうとはなこ」は、5歳から14歳までの発達に特性がある子どもや兄弟姉妹と一緒に遊ぶボランティアサークルです。京都府立大学で福祉の勉強をしている学生、約20名が中心となり、子どもの「楽しい」を一番考えた活動を、30年近く、行っています。

月に1回、休日に、宝が池公園や京都市近郊の施設へ遊びに行き、遊びやクラフト、キャンプなどの様々な活動を行っています。コロナウイルスの影響で、対面での活動が困難な時期は、絵しりとり、借り物競争、ジェスチャーゲームなどのオンラインでの企画を実施してきました。現在は、オンライン活動と対面活動を組み合わせた活動をしています。

メンバーからのメッセージ

こんにちは!たろうとはなこです。最近の活動では、11月に他団体さんとの連携のもとハロウィンをテーマにブース遊びを行い、12月には鉄道博物館の見学をしました。2月はZoomを通してオンライン活動を行っています。どの月もお子さんたちと一緒に学生も全力で楽しんでいます。よろしくお願いします!

問い合わせ先：たろうとはなこ

メールアドレス tarohana_happy@yahoo.co.jp



▲観光のための調査

With コロナの嵐山観光を考えるゼミ

京都ノートルダム女子大学 ND教育センター／キャリアセンター
准教授 濱中 倫秀

京都ノートルダム女子大学では、学生が社会に実在する問題や課題に対する解決提案を行い、そのプロセスや体験から就業力向上をはかる授業「キャリア形成ゼミ」を設置しています。

7つあるゼミのひとつ、「With コロナの嵐山観光を考えるゼミ」では、12名の学生が嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会のご協力のもと、京都を代表する観光地「嵐山」の魅力再発見、および新しい情報発信の方法を考えました。

実際の授業では、机の上だけの勉強ではなく、フィールドワークで現地を何度も訪問し、天龍寺や料亭「熊彦」においても特別授業をして頂きました。

新型コロナウイルスの影響で、観光客（インバウンド）が激減している現状を、実際に自分の目で確認し、この苦境をどう打開していくのか?どうやって嵐山の魅力を効果的に発信していくのか?について女子大学生の目線で考え、企画提案にまとめました。

そして最終授業では、学生から協議会の皆様に対してSNSの活用やARを駆使したスタンプラリー企画など、多様な企画のプレゼンテーションが行われ、高く評価頂きました。

今後も地域とのかかわりを積極的に創出し、学生が自信をもって仕事や将来を考えるきっかけにしていきたいと考えています。



料亭「熊彦」における特別授業



天龍寺における特別授業

学生の声

● 嵐山の景色のみならず、地域の人々との触れ合いに心が癒されました。これからも引き続き、魅力発信を続けていきたいと思っています。

